



TITLE:

表紙 (泌尿器科紀要 第46巻第4号)
購読要項・投稿規定・編集後記

AUTHOR(S):

CITATION:

表紙 (泌尿器科紀要 第46巻第4号) 購読要項・投稿規定・編集後記. 泌尿器科紀要 2000, 46(4): 295-269

ISSUE DATE:

2000-04

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/114249>

RIGHT:

泌尿器科紀要

Acta
Urologica
Japonica

Vol. 46, No. 4 April 2000

ACTA UROLOGICA JPN

ACTA UROLOGICA JAPONICA

Editor-in-Emeritus : Osamu YOSHIDA

Editor : Osamu OGAWA

Deputy Editor : Akito TERAJ

Advisory Committee

Masao AKIMOTO

Tadaichi KITAMURA

Masaru MURAI

Sadao KAMIDONO

Tomohiko KOYANAGI

Seiji NAITO

Juichi KAWAMURA

Takashi KURITA

Seiichi ORIKASA

Associate Editors

Tetsuro KATO

Shin-ichi OHSHIMA

Taiji TSUKAMOTO

Toshihiko KOTAKE

Ken-ichiro OKADA

Makoto MIKI

Akihiko OKUYAMA

Editorial Board

Hideyuki AKAZA

Yoshiaki BANYA

Junnosuke FUKUI

Masamichi HAYAKAWA

Masahiko HOSAKA

Kyoichi IMAI

Susumu KAGAWA

Yoji KATSUOKA

Taketoshi KISHIMOTO

Munekado KOJIMA

Hiromi KUMON

Zenjiro MASAKI

Tsuneharu MIKI

Yoshinori MORI

Yasunori NISHIO

Katsuya NONOMURA

Yoshiyuki OHNO

Yusaku OKADA

Young-Chol PARK

Toshiaki SHINKA

Masayuki TAKEDA

Hiroyoshi TANAKA

Ken-ichi TOBISU

Shoichi UEDA

Sunao YACHIKU

Tamio YAMAUCHI

Tatsuhiro YOSHIKI

Yoichi ARAI

Shin EGAWA

Hideki FUSE

Eiji HIGASHIHARA

Senji HOSHI

Nobuhisa ISHII

Hiroshi KANAMARU

Mutsushi KAWAKITA

Kenjiro KOHRI

Atsuo KONDO

Manabu KURIYAMA

Tadashi MATSUDA

Ikuo MIYAGAWA

Teruhiro NAKADA

Osamu NISHIZAWA

Yoshihide OGAWA

Kenji OISHI

Tetsuro ONISHI

Hiroki SHIMA

Taro SHUIN

Ikumasa TAKENAKA

Saburo TANIKAZE

Hiroshi TOMA

Michiyuki USAMI

Hirohiko YAMABE

Kosaku YASUDA

Shiro BABA

Kimio FUJITA

Tomonori HABUCHI

Yoshihiko HIRAO

Mikio IGAWA

Haruo ITO

Hiroshi KANETAKE

Nobuo KAWAMURA

Takuo KOIDE

Yoshinobu KUBOTA

Masaaki KUWAHARA

Masahiro MATSUSHIMA

Mieko MIYAKAWA

Mikio NAMIKI

Shinshi NODA

Hiroshi OHE

Kiyoki OKADA

Seiichiro OZONO

Kenji SHIMADA

Yoshiki SUGIMURA

Hideo TAKEUCHI

Toshiro TERACHI

Yoshihiko TOMITA

Tsuguru USUI

Hidetoshi YAMANAKA

Masayoshi YOKOYAMA

Managing Editor : Seiji MOROI, Shingo YAMAMOTO

Language Editor : Sumiko KAIHARA

Secretary : Teruo NAKAI

(2000.1.)

購読要項 (1996年1月改訂)

1. 発行は毎月、年12回とし、年間購読者を会員とする。
2. 一般会員は年間予約購読料10,000円 (送料とも) を前納する。賛助会員は20,000円 (送料とも) とする。払込みは郵便振替に限る。口座番号 01050-9-4772 泌尿器科紀要編集部宛。
3. 入会は氏名、住所を記入のうえ泌尿器科紀要刊行会宛、はがきか FAX にて申し込めば所定の用紙を送付する。

投稿規定 (1996年1月改訂)

1. 投稿：連名者を含めて会員に限る。
2. 原稿：泌尿器科学領域の全般にわたり、総説、原著、症例報告、そのほかで和文または英文とする。原著、症例報告などは他の雑誌に発表されたことのない内容でなくてはならない。
 - (1) 総説、原著論文、その他の普通論文の長さは、原則として、刷り上がり本文5頁 (400字×20枚) までとする。
 - (2) 症例報告の長さは、原則として、刷り上がり本文3頁 (400字×12枚) までとする。
 - (3) 和文原稿はワープロを使用し、B5 または A4 判用紙に20×20行、横書きとする。年号は西暦とする。文中欧米語の固有名詞は大文字で、普通名詞は小文字で始め (ただし、文節の始めにくる場合は大文字)、明瞭に記載する。
 - (イ) 原稿の表紙に標題、所属機関名、主任名 (教授、部長、院長、科長、医長など)、著者名の順で和文で記載する。筆頭者名と、2語以内の running title を付記する。
例：山田、ほか：前立腺癌・PSAP
 - (ロ) 和文の表紙、本文とは別に、英文標題、英文抄録をつける。標題、著者名、所属機関名、5語 (英文) 以内の Key words、抄録本文 (250語以内) の順に B5 または A4 判用紙にダブルスペースでタイプする。別に抄録本文の和訳を添付する。ワープロ原稿可。
 - (ハ) 原稿は、和文標題、英文標題、英文抄録、その和訳、緒言、対象と方法、結果、考察、結語、文献、図表の説明、図、表の順に配置し、原稿下段中央部に和文標題ページを1とするページ番号を付ける。
 - (4) 英文原稿は A4 判用紙にダブルスペースでタイプし、原稿の表紙に標題、著者名、所属機関名、Key words (和文に準ず)、running title (和文に準ず) の順にタイプし、別に標題、著者名、所属機関名、主任名、抄録本文の順に記した和文抄録を英文原稿の後に添付する。和文原稿と同様にページ番号を付ける。
 - (5) 図、表は必要最小限にとどめ、普通論文では図10枚、表10枚まで、症例報告では図5枚、表3枚までとする。
図、表、写真などはそれぞれ台紙に貼付し、それらに対する説明文は別紙に一括して一覧表にする。説明文は英文とする。原稿右欄外に挿入されるべき位置を明示する。写真はトリミングし、図表は誤りのないことを十分確認のうえ、トレースして紙焼したものが望ましい。様式については本誌の図表を参照する。写真は明瞭なものに限り、必要なら矢印 (直接写真に貼付) などを入れ、わかりやすくする。
- (6) 引用文献は必要最小限にとどめ、引用箇所に引用文献番号を入れる。文献番号は本文の文脈順に付すこと (アルファベット順不可)。その数は30までとする。
例：山田^{1,3,7)}、田中ら^{8,11-13)}によると…
雑誌の場合 — 著者名 (3名まで、それ以上のときは「ほか」「et al.」とする) 標題、雑誌名 巻：最初頁-最終頁、発行年
例 1) Kälble T, Tricker AR, Friedl P, et al.: Ureterosigmoidostomy: long-term results, risk of carcinoma and etiological factors for carcinogenesis. J Urol **144**: 1110-1114, 1990
例 2) 竹内秀雄, 上田 眞, 野々村光生, ほか：経皮的腎砕石術 (PNL) および経尿道的尿管砕石術 (TUL) にみられる発熱について。泌尿紀要 **33**: 1357-1363, 1987
単行本の場合 — 著者名 (3名まで、それ以上のときは「ほか」「et al.」とする)：標題、書名。編集者名 (3名まで、それ以上のときは「ほか」「et al.」とする)。版数、巻数、引用頁、発行所、出版地、発行年
例 3) Robertson WG, Knowles F and Peacock M: Urinary mucopolysaccharide inhibitors of calcium oxalate crystallization. In: Urolithiasis Research. Edited by Fleish H, Robertson WG, Smith LH, et al. 1st ed., pp. 331-334, Plenum Press, London, 1976
例 4) 大保亮一：腫瘍病理学。ベッドサイド泌尿器科学、診断 治療編。吉田 修編。第1版, pp. 259-301, 南江堂, 東京, 1986
- (7) 投稿にあたっては、本誌を十分参考にして体裁を守ること。
- (8) 原稿は、オリジナル1部とコピー2部 (図、写真は3部ともオリジナル) を書留で送付する。万一にそなえて、コピーを手元に控えておくこと。
(原稿送付先) 〒606-8392 京都市左京区聖護院山王町18 メタボ岡崎301号 泌尿器科紀要刊行会宛
3. 論文の採否：論文の採否は Editorial board のメンバーによる査読審査の結果に従い決定される。ただし、シンポジウムなどの記録や治験論文については編集部で採否を決定する。

4. 論文の訂正：査読審査の結果、原稿の訂正を求められた場合は、40日以内に、訂正された原稿に訂正点を明示した手紙をつけて、前記泌尿器科紀要刊行会宛て送付すること、なお、Editor の責任において一部字句の訂正をすることがある。
5. 校正：校正は著者による責任校正とする。著者複数の場合は校正責任者を投稿時指定する。
6. 掲載：論文の掲載は採用順を原則とする。迅速掲載を希望するときは投稿時にその旨申し出ること。
 - (1) 掲載料は1頁につき和文は5,500円、英文は6,500円、超過頁は1頁につき7,000円、写真の製版代、凸版、トレース代、別冊、送料などは別に実費を申し受ける。
 - (2) 迅速掲載には迅速掲載料を要する。5頁以内は30,000円、6頁以上は1頁毎に10,000円を加算した額を申し受ける。
 - (3) 薬剤の効果、測定試薬の成績、治療機器の使用などに関する治験論文および学会抄録については、掲載料を別途に申し受ける。
7. 別冊：実費負担とし、著者校正時に部数を指定する。

Information for Authors Submitting Papers in English

1. Manuscripts, tables and figures must be submitted in three copies. Manuscripts should be typed double-spaced with wide margins on 8.5 by 11 inch paper. The text of all regular manuscripts should not exceed 12 typewritten pages, and that of a case report 6 pages. The abstract should not exceed 250 words and should contain no abbreviations.
2. The first page should contain the title, full names and affiliations of the authors, key words (no more than 5 words), and a running title consisting of the first author and two words.
e.g.: Yamada, et al.: Prostatic cancer · PSAP
3. The list of references should include only those publications which are cited in the text. References should not exceed 30 readily available citations. Reference should be in the form of superscript numerals and should not be arranged alphabetically.
4. The title, the names and affiliations of the authors, the director's name, and an abstract should be provided in Japanese.
5. For further details, refer to a recent journal.

編 集 後 記

横浜市立大学附属病院の患者取り違え事件以来、京大病院、大阪赤十字病院でも医療事故が起こり、最近では東海大学附属病院で入院中の女児の静脈に点滴するチューブに内服液が注入され死亡した事故等々、大病院での初歩的医療ミスが相次いで報道されている。

神ならぬ身の人間のやることである以上、過ちはあるもの、ミスは犯すものとして、どの医療機関でも危機管理に、事故防止に懸命に取り組んでおり、今日ではほとんどの医療機関が独自のマニュアルを作成しこれを実行している。それにもかかわらず、ミスが絶えないのはなぜだろうか。

どこでも実施されているインシデント アクシデント レポートについていえば、少なくとも小生知る範囲ではどの医療機関でも提出件数が大変少ない。京大病院で人工呼吸器の加湿器に、蒸留水でなくエチルアルコールを間違えて入れた事件では、蒸留水とアルコールの容器がほとんど同型のものであり、しかも同じ場所に保管されていたのが主な事故の原因である。もしこの事故が起こる以前に、誰かがアルコールの容器を蒸留水の容器と間違ったがラベルを見てその間違いに気付いたことがあったとしたなら、そしてこれをインシデントとして報告し、病院もそれを直ぐに改善していたならばこの事故は防ぐことができたわけである。もちろん仮定の話であるが、この間違いを報告した人は、事前に大きな事故を防いだとして高く評価されねばならない（病院長は報告者に最敬礼してお礼を言ってもまだ足りないような気持ちになるだろう）。

インシデント アクシデント レポートはそれをキチンと運用すれば、医療事故防止に大変役立つものである。面倒だとか恥ずかしいなどと考えないで、ナースをはじめ医療従事者すべてがレポートの提出を習慣づけ、病院管理局は必要なら速やかに改善しなければならない。医療上のミスはどこでも起こりうる。医療従事者全員がその予防対策に積極的に取り組まねばならない。

(吉田 修)